

東京オリンピックに向けての見解

2015 年を迎え、(公財)日本ソフトテニス連盟(以下日本連盟)もソフトテニスの更なる振興、飛躍に向け、より一層の努力、活動を進める所存でございます。

2015 年、ソフトテニスを愛好の皆様が一番の関心事は、2020 年の東京オリンピック開催に向け、我ソフトテニスのオリンピック参加、公式種目化の可能性や実現性ではないかと思えます。

12 月中旬より、「ソフトテニスをオリンピックへ応援する会」の署名活動が始まりました。今回の署名活動によって、ソフトテニスへの熱い思いを持った方々の存在をあらためて実感しました。この熱意が日本のソフトテニスを支えているものと思えます。オリンピックへの参加は、現役選手はもとより、未来の選手候補である子供たちの夢であり、ソフトテニス関係者にとって実現すべき目標です。

ご存知のように、現在ソフトテニスはオリンピックのアジア版でありますアジア競技大会の公式種目として過去 20 年余の歴史を刻んでおります。しかしながらスポーツの最大の祭典であるオリンピックには参加を果たせておりません。我々連盟スタッフ、関係者は、ソフトテニスアスリートが、他のスポーツのアスリートと同じようにオリンピックの金メダルが最大の目標となるよう、また世界のソフトテニス関係者に感動を与えられるよう、オリンピック種目への道を究極のゴールとしてこれまで活動を続けて参りました。

オリンピック参加には、まず国際オリンピック委員会 (IOC:International Olympic Committee)の認証団体になることが必須条件です。残念ながらソフトテニスの国際ソフトテニス連盟 (ISTF:International Soft Tennis Federation)は未だ IOC の認証国際連盟 (IF:International Federation)として認められておりません。オリンピック種目の基準や条件は数多くありますが、基本的基準は、以下の内容になっております。

1. その競技が男子は世界 75 ヶ国以上、女子は 40 ヶ国以上の国で広く競技されていること
2. 男子は世界 4 大陸以上、女子は 3 大陸以上で広く競技されていること。

まず、世界での競技普及度が低いことが、ソフトテニスが IOC の認証スポーツ国際連盟となり得ていない理由です。

更にクリアすべき条件として次の項目があります。

3. 世界選手権、ジュニアの国際大会開催を定期的に開催していること。
4. ARISF(Association of IOC recognized International Sports federation)の加盟競技であること。

注:アリソフ(ARISF)は、IOC に認証された IF で、非オリンピック種目のスポーツ組織

野球、ソフトボール、空手、スカッシュ、スポーツクライミング等約 35 競技の IF が加盟している。

5. スポーツアコード(世界の国際スポーツ組織や、ユニバーシアード等の統合組織も加盟している世界最大のスポーツ関連組織)の加盟 IF であること。
6. ワールドゲームズ協会(世界の国際スポーツ組織が加盟している団体で、IOC と密接な関係にある世界的組織) 4 年に 1 度、非オリンピック種目の総合スポーツ世界競技大会を開

催している。このワールドゲームズの加盟組織であること。

ソフトテニス、3 番の世界選手権・ジュニア世界選手権の開催および5番のスポーツアコードの加盟 IF であること以外は、残念ながらどれも満たしておりません。現在、東京オリンピックの追加種目候補に挙がっている空手もスカッシュなどは、世界100ヶ国以上に競技組織を持っており、上記の基本 6 条件を満たしています。また野球やソフトボールは、競技国数は満たしていないものの、その他は満たしており、過去の種目であったこと、テレビ視聴の人気種目、観客動員が期待できる競技等の理由により、参入の可能性が高いと言われております。

ソフトテニスは残念ながらつまりは、国際競技普及度においてまだまだオリンピック参加基準に達していない状況です。実際、ここ数回の世界選手権においては、かろうじて 30 ヶ国程度の参加となっており、アフリカの国々からの参加はなし得ておりません。日本国内では競技人口の多いポピュラーなスポーツの 1 つではありますが、世界的に見ると、マイナーなローカルスポーツの域を出ていないのが現状です。

日本連盟では 10 数年前からアジアはもとより、ヨーロッパ、南アメリカ等の国に、普及活動を続けて参りました。本来は、ISTF が中心となり世界振興、普及を啓蒙していくべきであります。他のスポーツ IF と決定的な差は、ISTF の基盤は非常に脆弱で、その機能、組織力をはるかに劣っており、予算は全く無く、活動組織、スタッフも全くいない状態です。ISTF の会長国は韓国で、日本は事務総長を担っております。従って事務総長国として日本が国際普及活動の一部を担ってきましたが、資金力を含めその活動には限界があり、普及を進めた国でも、その後活動が停止してしまった国もあります。

世界選手権に出場する国であっても、その国内では国内オリンピック連盟(NOC:National Olympic Committee)に加盟し、認められた組織でなければ、IOC の認める組織とはなり得ません。日本は JOC 傘下の競技団体ですが、同じように NOC 傘下の国は、韓国、中国、中華台北、フィリピン、インド、インドネシア、ネパール等々アジアの数ヶ国に過ぎません。それ以外の国のソフトテニス連盟がしっかりとした組織を作らなければ、各国の NOC には認められません。今後普及国をさらに増やしていくとともに、より多くの国で、1 つでも多くの NOC 認証組織を増やしていく必要があります。

一方で、国際的認知度を高め、IOC に認証される IF となるため、スポーツアコードの国際会議やワークショップに参加をし、他のスポーツ IF の重鎮や発言力のあるキーパーソンとの人脈作りをスタートしたのはここ 4~5 年のことであり、やっとならぬワールドゲームズ協会やユニバーシアード等のオリンピック委員会に順ずる組織への入会に向け道筋が見え始めたところでです。

2020 年の東京オリンピックへの新規参入スポーツは上記基準を満たす 10 スポーツが既に決定されており、その中から 2~3 の競技が決定と言われておりますが、以上のことから残念ながらソフトテニスは、その 10 競技には含まれておりません。

国際普及において、最も重要なことは、ソフトテニス競技国を増やすことと、その国の組織が、NOC 傘下の競技団体として認められることです。各国の競技人口、財政を含めた運営の基礎作りといった課題は、それぞれの国の連盟で、自発的に解決していかなければなりません。そうした自

立した組織が多くの国にできれば、世界普及も加速することができます。時間はかかっても着実に「自立組織」を植え付けていく。そうすれば各国 NOC 認証組織も増え、五輪競技条件である、残り2つの ARISF とワールドゲームズ協会への加盟も現実味が帯び、オリンピックの道が開けると考えております。

以上のことから、現段階では日本連盟は、ソフトテニスに IOC に認証されていないこと、オリンピック憲章で定められた基準が満たされていないという決定的な理由により、残念ながら2020年の東京オリンピック種目への可能性は、無いと結論付けております。

従いまして、今回の「ソフトテニスをオリンピックへ応援する会」の活動は、オリンピックに向けての熱い思いであり、日本連盟を含め、ソフトテニス愛好者の共通の思いでもあります。また、「ソフトテニスをオリンピックへ応援する会」の署名については、日本連盟として各都道府県連盟等の支部にお願いすることは、差し控えさせて頂きました。

2020年の東京オリンピックでの競技としてソフトテニスの参加は出来ませんが、文化活動プログラム等のオリンピックムーブメントの別な形での参加を模索し、東京都ソフトテニス連盟と連携して組織委員会、JOC へ働きかけをして参ります。併行して、東京オリンピックを良い機会としてソフトテニスを広くアピールするための映画、漫画、指導教本の製作により、一人でも多くの方に見ていただくための活動を展開していきます。さらに競技団体独自の国際大会を日本で開催する計画、2020年を軸に、ジュニア、トップアスリート、シニアを対象とした生涯スポーツであるソフトテニスの3大世界大会開催の実現に向けて努力したいと考えております。

まずは、今年の世界選手権大会と来年のアジア選手権大会の開催地決定、そして3年後のインドネシアでのアジア競技大会参加に向けて取り組み努力することが第一です。

そして今後のオリンピックへの参加をめざし、一足飛びには出来ませんが、国際連盟の強化・組織化を図り、多くの国々の協力のもとでの国際振興を、計画的に推進していくことが重要です。今回、東京オリンピックの追加種目に立候補している競技は、これらの点で過去の参加経験、世界普及等大きなアドバンテージがあります。ソフトテニスも競争のスタートラインに立っている様、一步一步進めていきたいと思っております。

日本連盟としても、ソフトテニス発祥国、国際連盟のリーダー国として、オリンピックの正式種目が実現できるよう、次世代にオリンピックの道が引き継げるよう、ソフトテニスの国際化に向けて更なる努力を続けて参ります。今後ともご支援、ご協力をお願い致します。

公益財団法人 日本ソフトテニス連盟
専務理事 笠井 達夫